

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1491500029
法人名	株式会社 ツクイ
事業所名	ツクイ湯河原サンフラワー
訪問調査日	平成21年3月27日
評価確定日	平成21年5月28日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1491500029		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ湯河原サンフラワー		
所在地 (電話番号)	神奈川県足柄下郡湯河原町福浦220 - 1 (電話) 0465-69-1777		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年5月28日

【情報提供票より】(平成21年2月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階 ~ 2階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	51,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(240,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成21年2月18日現在)

利用者人数	6 名	男性 2 名	女性 4 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	五十子内科医院、こしみず歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、JR東海道線の真鶴駅から徒歩5分程の住宅や別荘が点在している高台にあり、居間等から相模湾が一望できて大変眺めが良い。
運営法人は多数の介護事業所を展開し、研修体制等を整えている。新しい事業所であるが管理者や計画作成担当者は、法人他事業所からの異動のため経験がある。ADLの高い利用者が多いこともあり、水族館に行く等、積極的に活動している。日常的には、賑やかに歩行練習が行われたり、利用者の「天気が良いから出かけよう」の言葉を受けて、散歩や買物に出かけている。
「暖かい家庭的なあなたの暮らしを守ります」という基本理念の実践に努めており、利用者が混乱なく安心して過ごしているように見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>開設後6ヵ月を経過して、初回の評価受審である。今回の評価で課題が見出された場合は、職員会議等を通して改善に努め、今後に生かす意向である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、計画作成担当者が中心となって行い、職員は確認している。この確認の際に、管理者から先に行われた法人の監査との違いを話す等で、自己評価及び外部評価を実施する意義について周知している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2~3ヶ月に1度の開催予定で、1月に1回目を開催し、4月に2回目を予定している。メンバーは役場の職員、民生委員、区長、老人会会長、前年度区長を勤めていた隣家の方、利用者の家族である(「区」は町内会等に相当)。事業所の状況報告や意見交換が行われ、参加者より「区に参加したらどうか」等の助言を得て、4月から加入することになった。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>各利用者につき、概ね1ヶ月に1~2回家族の来訪があり、その際に、要望を聞くように努めている。今後は運営推進会議や行事への参加を通して、意見等を表してもらう意向である。相談窓口や苦情処理の対応については、契約時に重要事項説明書で家族等に説明している。「苦情を処理するために講ずる措置の概要」等のマニュアルを整えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>一般的には町内会に相当する「区」に今年の4月から加入する予定である。加入に際しては、前年度区長を務めていた隣家の方からの働きかけもあり、区長や民生委員の理解が得られ、スムーズに受け入れられた。地元の人とは、散歩の際に挨拶を交わしたり、週1回リハビリ体操のボランティアが来訪する等の交流がある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「暖かい家庭的なあなたの暮らしを守ります」の基本理念と「私たちは.....明るく笑顔で接します。地域との関わりを大切にします。家庭的な生活空間をつくります。一緒にできることを探し、共感し喜びを分かち合います。安全と安心を心がけます」という事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事業所立ち上げの際に職員と話し合い作成したものである。常時確認できるようユニットの出入り口に掲示し、サービスに反映するよう努めている。管理者は、利用者が1日を明るく安全に過ごせるよう配慮することを職員に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に相当する「区」に今年の4月から加入する予定である。加入に際しては、前年度区長を務めていた隣家の方からの働きかけがあり、区長や民生委員の理解も得られスムーズに受け入れてもらえた。地元の人とは散歩の際に挨拶を交わしたり、週1回リハビリ体操のボランティアが来訪するなどの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設後半年を経過して、初回の評価受審である。自己評価は、計画作成担当者が中心となり職員は確認した。この確認の際に、管理者から先に行われた法人の監査との違いを話す等で、自己評価及び外部評価を実施する意義について周知している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2~3ヶ月に1度の開催予定で、今年度は1月に1回目を開催し、ホームの状況報告や意見交換が行われ、4月に2回目を予定している。メンバーは役場の職員、民生委員、区長、老人会会長、隣家の方、利用者家族である。参加者より「区(町内会等に相当)に参加したら」等の助言を得て、4月から加入することになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護課の職員が運営推進会議に参加しており、運営推進会議を通して連携を図っている。担当職員からは地域の同業事業所の状況等の情報を得る等、仲立ちを担ってもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各利用者につき、1ヶ月に1~2回家族の来訪があり、その際に暮らしぶりや健康状態の報告をしている。健康状態の変化があつて受診した際は、電話やFAXで報告している。理美容等の費用は立て替え、毎月、レシート・明細を添付して請求し、清算している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設けていない。来訪時には要望を聞くように努めている。今後は運営推進会議や行事への参加を通して、意見等を表してもらおう意向である。相談窓口や苦情処理の対応については契約時に重要事項説明書で家族等に説明している。「苦情を処理するために講ずる措置の概要」等のマニュアルを整えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で異動はある。異動の際の利用者へのダメージを防ぐ配慮としては、職員同士がマンツーマンで引き継げるよう研修期間を設けて、利用者が不安にならないようにする意向である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画に基づき事業所は「20年度年間研修計画」を作成している。雇用形態を問わず「接遇・苦情対応」等の内部研修や地域の病院で行われた研修等を受講している。職員は会議での報告や文書の供覧で研修内容を把握し、個々に「研修記録」を提出し管理者等からアドバイスを受け内容を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームは2ヶ所で、連絡会等の組織が無い。市の職員を通し相互の状況把握をしている現状で、直接同業者と交流する機会はない。法人の湘南・県央エリア4箇所のグループホームとは、毎月行われる「ウィークリーミーティング」で交流を図っている。開設前に、法人の他事業所で研修を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらったり、面接を行い、入居に至った際に利用者とコミュニケーションを図れるようにしている。体験入居を行い、1名が継続して入居に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「なぜ外に出るのか」「読書をするのか」等、利用者の不安やこだわりの理解に努めている。「一緒にできることを探し、共感し喜びを分かち合います」の理念に沿って、職員は衣類のたたみ方などを教えてもらい、感謝したり、学んだりする関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から得た生活歴等とアセスメント表をもとに、日々の言葉や面会時の家族の話などから希望や意向の把握に努めている。把握した意向は「連絡ノート」に記録し共有している。現在は、言葉で意思疎通できる方ばかりで把握の困難な利用者はいない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からは来訪時に、利用者からは日々の関わりの中で思いや意見を聞けるよう心がけ、月1回のケアカンファレンス等で話し合い、それぞれの意向を介護計画に反映するようにしている。リハビリ等については医師の意見を反映し、介護計画「施設サービス計画書(1)(2)(3)」を作成している		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常の見直し期間は、3～6ヶ月(状況変化がある場合はその都度)としている。概ね3ヶ月に1度見直しが行われている事を「施設サービス計画書(1)」の作成日で確認した。ケアカンファレンス、アセスメント表の作成、サービス担当者会議を経て新たな介護計画を策定し家族から確認印を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携に努め、利用者の提携病院を明確にしている。家族が対応できない際の通院介助や理美容院の利用支援等の自主サービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望により、事業所の協力医療機関や従来からのかかりつけ医など他の医療機関で受診している。2週間に1回内科医等の往診があり、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書の「施設の運営方針」に入院や常時医療処置が必要となる等、事業所内で対応することが困難となった場合は、利用者が続けて施設内で生活できない事を明示し、入居時に家族等に説明している。この方針に基づいて事業所は看取りを行う意向がある事を家族に口頭で伝え、職員には採用時に伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「申し送りは利用者の名前が聞こえないような場所で行う」等のルールを職員間で共有している。訪問時、プライバシーを損ねるような言葉遣いなどは見受けられなかった。個人情報に関わる書類等はロッカーに収納し、施錠管理している。個人情報保護についての研修が法人の研修計画に組み込まれている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、食事時間等のたまかな決まりはあるが、利用者ごとのペースを保ちながら暮らせるよう支援している。昼食前には、おしゃべりを楽しんだり、自室でテレビを見る等、利用者がそれぞれのペースで過ごしていた。天気の良い日は、利用者からの声に応じて散歩に出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はテレビが消され、職員は、見守りをしながら利用者と一緒に同じ食事をしていた。利用者は下膳や食器ふき等を行っている。肉を好まない利用者は、魚に変更する等の対応をし、嗜好を取り入れた献立を職員が作成している。出前や外食等でも、食事が楽しめるよう努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お風呂を沸かし、利用者は、最低でも週3回は入浴している。入浴時間は特に決められていないが、午前10時すぎから、午後は1時半から3時頃までに入ることが多い。希望があれば毎日入浴できる。入浴したくない利用者には、洗濯物を部屋に届けた際に入浴を促す等、声かけに工夫したりタイミングを見はからって入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴などを生かし、掃除、洗濯物たたみ、散歩、買物、ぬりえ、読書等の役割や楽しみごとの支援をしている。年間行事計画があり江ノ島水族館や十国峠に行くなど普段と違う生活の支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には近くの公園への散歩や車での買物等に出かけている。外出時に車椅子を使用する利用者は、外気浴をしたり車で近くの公園に行き散歩するなど戸外にも出ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の扉は日中施錠していない。時間帯や言動等から利用者の外出傾向を把握し、こたわりに応じて散歩や買物に出たり、体を動かすことやぬり絵など利用者が好んでいる事を促し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成20年10月に消防計画を消防署に提出し、本年1月に火災を想定した自主の避難訓練を行っている。災害時の協力依頼については、1回目の運営推進会議で話題にしたが、自治会に相当する「区」等への働きかけはまだしていない。地域に消防団の組織は無い。		不意の災害に備え、水など非常時の備蓄が望まれる。また、火災を想定した訓練に参加してもらうなど、災害時に地域の人から協力が得られるような働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂食量や水分量はバイタルチェックと共に表にして把握している。水分量は一日1500～2000ccを目安にする。糖尿病の利用者は摂食量を調整する等の支援をしている。調査日の昼食はクリームシチューであったが、かぼちゃ、にんじん等の具を食べやすいように小さくしてしている人がいた。栄養バランスについて専門家のアドバイスは受けていない。		食べる量や栄養バランスについて、同一法人の管理栄養士等にチェックしてもらい確認することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく、畳のスペースがあり、窓からは相模湾が一望できる。窓の開閉で換気がなされ温度調節の設備やテレビ・音響設備等が整っている。台所や浴室などの設備は一般家庭と同様である。外溝や居間、洗面所等に花を活け、季節感を採り入れている。写真や作品などの掲示は相応で、家庭的な雰囲気を保っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、事業所が整えたクローゼット、クーラー、カーテンの他、本人や家族等が持ち込んだ、加湿器、桐ダンス、籐の椅子、整理ケース、アルバム、写真等が置かれていた。入居時に生活に必要な、好きな馴染みのものを持ち込んでもらうよう伝えており、居室の雰囲気は様々であった。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ツクイ湯河原サンフラワー
(ユニット名)	あやめ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県足柄下郡湯河原町福浦220-1
記入者名 (管理者)	田中 明美
記入日	平成 21 年 3 月 12 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げ掲示してある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、その内容に即したケアを実行するように毎日努力している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をいつでも見れるところに掲示し、ホームを訪れる多くの方々に説明を行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者との散歩の時など、すれ違う際に挨拶をかわしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今後、町会にはいるなどして積極的に参加していく予定。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会等と積極的な活動を行っていく予定。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1月に行われた内部監査の評価を前向きに受け止め、日々の業務にいかしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、運営報告や入居者様の日々の生活ぶりを報告し、参加者の方々より助言をいただきそれをサービスにいかしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今後、検討中。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今後、外部研修などを通じて勉強会を実施予定。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を設置し、研修や委員会を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に家族と読み合わせを行い、疑問点の残らないように十分な説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者と話をする機会を設けて、サービスの改善に反映させている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>電話や面会の際に、個々に報告を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>推進会議や面会時などで、意見や苦情などを言ってくださるので、それを運営に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議を毎月行い、その意見をまとめて、業務に反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在いる職員達で、融通をきかせながら柔軟対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ほとんど離職者はでていないが、新入職者には研修期間を通じて、入居者に影響のないよう配慮を行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、ホーム内での勉強会を定期的 に実施し、職員の育成向上を行っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同社の他のグループホームとの交流を毎月行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	随意時相談に乗っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の能力や経験、性格などを見極めた上で、個々の長所を生かしながら適切なアドバイスを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接時に本人と個別で面接を行い、入居に際して不安のないよう配慮している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接のみならず、面会や電話の際にも相談を聞き入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急での受け入れなど、入居者や家族の状況に柔軟に対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居というかたちで、グループホームに慣れていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯、掃除、レクなどを協働で行うことでもともに暮らすという実感を共有できている。食事も入居者と一緒に家族のようにして食べている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事(誕生会、外出等)のお知らせや、健康状態の報告などを通じて情報の共有をしながら入居者への理解を深めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に入居者の現状を随時お伝えし、以前の様子なども伺いながら、より良いコミュニケーションへと発展できるよう支援している。家族構成などは、職員全体で理解している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人知人などの面会は、日常的にあり、ホームの中で自由に過ごすことができる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の人柄を職員が全員把握し、また、日々の申し送りや連絡ノートなどを活用して、良いコミュニケーションができるように常に配慮を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居者はなし。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意思などを把握する為に、日常的に声かけを行い、困難な方には、表情や声かけ時の反応などを考慮して気持ちを汲み取るようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から情報収集を行い記録するようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りや、カンファレンスの時などに入居者個々のことを細かく話し合いながらその人全体を把握する。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族のご意見要望を伺いながら、カンファレンスや会議で意見を出し合いながら計画に反映させている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況を把握しながら、必要に応じて随時行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を具体的に記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状況の変化を随時報告しながら、柔軟対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方が、週に一度リハビリ体操をしていただいている。民生委員の方が、地域の行事や季節の風景をビデオカメラで撮ってきて、DVDにして寄付して下さる。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今後、本人の意向を聞きながら、その要望に応じて柔軟に対応していく予定である。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で役場の介護課の職員に参加して頂き協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にくる往診や、希望する医療機関への受診を行っているので体調の変化などにすぐに対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的にくる往診医の中に専門医がいるので病状の変化に応じて診断、治療を受けて頂ける。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	今後、看護職を配置して、入居者の体調管理を行っていく予定。又、定期的にくる往診医が訪問看護も行っているため支援も受けられる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	開所後、入院者はないが、出た場合にはまめに連携をとっていく予定。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所後、まだそれに該当する方はいないが、出た場合には家族や医師と十分な話し合いの上、方向性を決めていく。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	開所後、まだそれに該当する方はいないが、出た場合には家族や医師と十分な話し合いの上、方向性を決めていく。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今後、そのようなケースが出てきた場合は、必要な情報を提供し、本人が安心して生活することができるよう配慮する。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者個々を尊重した丁寧な言葉遣いを心掛けている。記録物等の個人情報、一切持ち出しをせず、きちんと保管している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>レクリエーションや外出等の行事の参加など、常に声をかけて本人の意思を確認している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者個々の生活ぶりを把握しながら、本人の意思を尊重している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>季節にあった物を着たいだけ、理美容は地域の店にいたり、以前行っていた美容室の方にきていただいたりしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一緒のテーブルで食事を行い、洗った食器の拭き取りや後片付けを一緒に行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個々の嗜好を伺いながら飲み物やおやつを提供している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを記録し、声かけや誘導を実施して、トイレにて排泄できるよう努力している。失禁のある方でもこまめにオムツを交換して不快感を軽減している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1対1での入浴を行っていて、声かけをしながら時間なども希望に応じて対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	24時間フロアと居室を自由に行き来することができ、また、際に見守りや安全確認を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の能力を把握し、本人のできることを無理せずやっけて頂いている。レクや外出など本人の希望を一番に考えて行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談しながら行っていく予定である。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、外出や敷地内の洗濯物を干したり、掃き掃除をしたりと随時行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	計画を立てた上、外出行事を行っている。(江ノ島水族館、公園での桜見物等)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など希望に応じて随時対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人知人など日常的な訪問があり、時間を気にせずに自由に過ごしていただけるよう心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に沿って、拘束は行わないケアの実践を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけないようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	業務の分担をしながら、入居者の安全を第一に声をかけながら行動している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者個々の状況を把握し、考えながら環境の見直しや検討を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホーム内の研修やマニュアルを置いている。入居者個々については、カンファレンスや日々の申し送りの際に情報の共有を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホーム内にて研修を行い、マニュアルを置いている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが完備され、避難訓練も行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者個々のリスクについては十分な説明を行い、カンファレンスで対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、午前午後でバイタル測定を行っている。職員は常時入居者の身体状況の把握に努め早期発見に努めている。変化の情報は、すぐに往診医や家族に伝達している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰の薬でいつ飲むのかを分かるように表示をつけて確実な服用を行っている。また、服用後に記録を付けて飲み忘れのないように努めている。変化ある場合は、申し送りや連絡ノート等で確認できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の体操や歩行訓練の実施、食事にて野菜を多く取っていただき、乳製品の提供や水分不足にならないように水分量の把握を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者個々の状況に合わせて、介助もしながら、毎食後に口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の状況に合わせて、食事の量や形態などを合わせて提供している。食事の摂取状況や摂取量を把握しては、食事の提供に反映させている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを置くとともに、ホーム内での研修を行い、手洗いやうがい、手袋の使用やまめな消毒などを行い予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具は使用后すぐに洗浄し清潔を保ち、食材は日付を確認しながら新鮮なうちに利用し、冷蔵庫や冷凍庫を有効活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りや敷地内の清掃に努めて、草花なども置いて明るくいふいんきを作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に入居者と作成した作品や外出時の写真などを飾っている。心が落ち着けるような音楽を流しりして、落ち着いて過ごせる空間作りに努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には畳のコーナーもあり、テーブルや椅子に位置なども配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家族と本人の希望を優先して、自由に物品を持ち込むことができる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室やホールなどこまめに窓の開け閉めを行い換気に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備は安全に配慮されている。廊下やトイレ、風呂場などに手すりが設置されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力を把握した上で、安全かつ自立して生活できるように心掛けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯物を干したり、掃き掃除や水巻などを日々行っている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・入居者様が戸外へ出かける機会を多く設けている。出来るだけ地域の一員であると自覚を持って頂く為。・日々の日常生活の中で入居者様も出来る事は手伝って頂き意欲と自信を持って頂く。・朝の体操や音読、歌など積極的に参加して頂いている。